

口腔アレルギー症候群 (OAS: oral allergy syndrome)

今年もスギ花粉症の嫌な季節がやってきました。現在、花粉症は4人に1人の国民病になっています。その四大症状は、くしゃみ・鼻水・鼻づまり・目のかゆみですね。それとは別に、この花粉症の一部の人がある食べ物を食べると、口の中に刺激感やかゆみ、喉の奥が詰まるような感じがするといった症状が出ることがあります。これを口腔アレルギー症候群 (OAS: oral allergy syndrome) といいます。今回は、OASについて解説します。

症状

果物や生野菜などの原因となる食物を食べると、数分以内にそれらが触れた唇、舌、口の中に刺激感や、かゆみ、喉がつまったような感じが現れます。ひどい場合には嘔吐や下痢といった消化器症状も現れます。さらに鼻や眼の花粉症様の症状や、蕁麻疹が出たり、喘息、アナフィラキシーショックを起こすこともあります。

原因

花粉症は、スギやヒノキなどの花粉を個体が異物と認識すると、それに対するIgE抗体を作ります。このIgE抗体は粘膜にある肥満細胞の表面にくっついた形で存在し、アレルギー物質が侵入するとこれと結合して、肥満細胞の中のヒスタミンなどの化学物質が放出されることにより、症状が出ます。OASの場合、この原因花粉と果物や生野菜との間に構造が似ているアレルギー物質が存在するため、口の中でもアレルギー反応が起こってしまうのです。これを交差反応といいます。花粉症との合併率はスギ花粉症患者で16.5%、シラカンバ花粉症患者で40から50%との報告があります。代表的な原因食物は、スギはナス科の野菜のトマト、シラカンバは、リンゴやモモ、梨やイチゴといったバラ科の果物、イネ科とブタクサは、スイカ、メロンといったウリ科の果物、ヨモギはセリ科野菜のニンジンやセロリと交差反応を起こしやすいといわれています。また、ラテックスゴムのアレルギーの人は、アボカド、クリ、バナナと反応しやすいので注意が必要です。



原因花粉	交差反応が報告されている食品の一例
スギ・ヒノキ	トマト
シラカンバ・ハンノキ	リンゴ、モモ、ジャガイモ、キウイ、オレンジ、ニンジン、セロリ、ヘーゼルナッツ
カモガヤ・オオアワガエリ	スイカ、メロン、トマト、オレンジ、セロリ
ヨモギ・ブタクサ	スイカ、メロン、セロリ

診断

原因物質に反応するIgEを血液で測定するのは簡便ですが、感度は高くありません。アレルギーの原因と疑われる食物を専用の針で刺し、それを上腕の皮膚に刺して反応をみる、プリック・プリックテストが、最も感度が高いといわれています。

対策と治療

原因、誘因となる食物の摂取を可能な限り避けることが基本です。果物や生野菜に含まれるアレルギー物質は熱に弱く、加熱すれば食べることができることもあります。特に、症状が頻繁に出る時期にはこれに加えて、抗アレルギー薬をしばらく服用することが必要です。症状が出現した時には、直ちに抗ヒスタミン薬や副腎皮質ステロイド薬を服用して、症状が短時間で進行していくのを少しでも抑えるようにします。通常は1時間以内に症状は治まりますが、治まらずに進行していく場合や、当初から喉の狭窄感や喘息発作、ショックなどの激しい症状が出現した場合には、直ちに救急外来を受診してステロイド薬の点滴治療を受けなければなりません。

口腔アレルギー症候群は、花粉症以外のアレルギーをお持ちの方にも起こります。下記に当てはまる方で、症状があらわれた場合はご相談ください。

- 気管支喘息の既往のある人
- 即時型食物アレルギーの既往がある人
- 薬剤アレルギーの人
- ラテックスゴムアレルギーのある人